



本校における英語教育の現状 (○) と課題 (▲)

- 言語活動では、相手意識・目的意識をもって自分の考えや気持ちなどを英語で伝えようとする児童が多い。
- 中間指導では、内容面や言語面を意識して指導に当たっている。
- 「話すこと(やり取り・発表)」「聞くこと」に関する活動は多い。
- ▲言語活動において、相手意識・目的意識に対する思考の「質」に課題がある。
- ▲中間指導の際の、内容面での深まりを持たせる指導言や指導者の意識。
- ▲「読むこと」「書くこと」に関する活動は少ない。

本校における具体的な取組内容

1. 「思考の『質』」の向上を図るために
 - ・ALT によるデモの工夫
 - ・中間指導における見方・考え方を生かした指導言の工夫
 - ・児童が表現する順序や文脈、効果的な質問を考え、思考を整理・分析するためにICT端末を活用
 - ・「ICT 端末を活用した家庭学習」と「授業」との関連性を高める
2. 「目的・場面・状況に立ち返る指導言」を用いた内容面に関わる中間指導
 - ・「誰に・何のために」という視点を児童と共有 ⇒ 思考の道筋を正す ⇒ より深い思考へ導く
 - ※児童が使用する英語表現を用いた指導言を取り入れる。
3. 「慣れ親しんだ表現」を書き写したりタイピングしていく活動を取り入れる
 - ・英語表現を使って十分にやり取りし、慣れ親しんだ後、書き写す活動を実施
 - ・掲示や他学年や他校と交流、振り返るための保存など目的を持たせ「書くこと」の必要感を高める

- 学年：5年生
- 単元名：My hero is my brother.～マイベストキャラクターをALTに紹介しよう～
(Here We Go! 5 Unit5)

- 領域：「話すこと(発表)」
- 単元目標：日本のアニメや漫画が大好きなALTのトム先生に、さらに日本のアニメや漫画について詳しくなってもらうために、マイベストキャラクターについて、その人の性格やどんな人物かなど内容を整理して、発表することができる。
- パフォーマンス課題：日本のアニメや漫画が大好きなALTのトム先生に、さらに日本のアニメや漫画について詳しくなってもらうために、マイベストキャラクターを紹介しよう。

■実際の言語活動の様子や工夫

- ①目的・場面・状況の工夫…単元の中で伝える相手を変え、発表の内容をブラッシュアップさせていく。
- 「アニメや漫画を全く見ない英語専科」→基本的な情報(職業・性格)
 - 「アニメや漫画をたまに見る担任」→もう少し詳しい情報(できること、好きなこと、見た目)
 - 「アニメや漫画が大好きなALT」→好きな理由、自分との関わりなど

☆相手が変わること、相手意識が高まり、伝える内容がブラッシュアップしていく。



【児童の振り返りから】
○○先生に発表をするために身長と、髪型を付け足した。○○先生はまあまあアニメを知ってるのもう少し特徴を付け足したほうがいいと思って、身長を付け足した。そして、△△くんの髪型を紹介するのがいいと思って髪型も付け足した。



②中間指導での発問や指導言

- ・「なぜその表現を入れるとよいか」「目標や相手に合った内容になっているか」を児童に問う。
- ・中間指導の後に「修正タイム」を設け、情報の整理や自分の考えの再構築を行う。

☆友達との言語活動や中間指導を通して、相手意識や目的意識を再確認する。

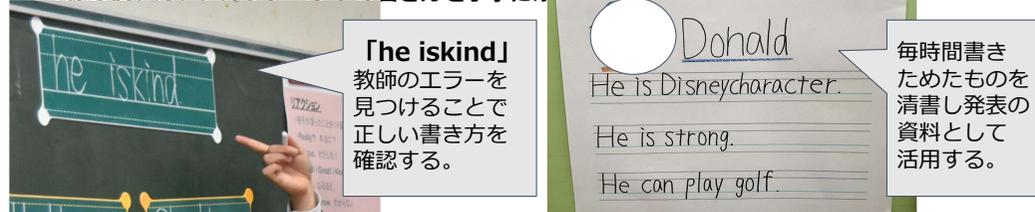
He is ○○. He is a soccer player. He is strong. He can make ○○. He likes pudding.

He is ○○. He is a soccer player. He is strong. He can make ○○. He likes pudding. He is 187cm. He has mohican.

③「書くこと」の指導

- ・友達との言語活動を通して音声で慣れ親しんだ表現を、毎時間ワークシートに書き溜める。
- (①He/She is 職業. ②He/She is 性格. ③ He/She can ~.)
- ・ポスターに清書し、パフォーマンステストでの発表資料として活用する。

☆4線の使い方、アルファベットの書き方を丁寧に確認する。



- 毎時間伝える相手を変えるなど目的・場面・状況を工夫することで、より相手や目的に応じた英語表現を児童が選択できるようになり、即興的な思考の質の高まりが見られた。
- 児童の実態を考慮し、「マイベストキャラクターを紹介する」という単元ゴールを設定したことで、発言が苦手な児童からも「話したい」という意欲の向上がみられた。
- 中間指導では目的・場面・状況に立ち返った声掛けを行うことで、児童は目標を見失うことなく、課題に正対して思考・判断・表現を働かせることができた。
- 単元のゴールを工夫することで、「伝えたい」という思いが高まることによる相乗効果で、相手により正確に伝えたいという「書くこと」の必要性をもたせることができた。

▲情報収集や修正タイムの際に、Figjamをに書き込みをしている児童が多く、既習事項の確認や言語材料の定着をもう少し図る必要があった。

☆学習者用デジタル教科書を使うことのメリット、どんなことに使えるのかといった点を児童に伝えながら、効果的な活用方法や活用場面を模索している。

▲言語活動の中で英語を使った質問ができず、発表し合うだけという様子も見受けられた。普段から「やり取り」をベースにした授業展開を行っていくことが大切だと感じた。

☆Small Talkも含めて、T-A、T-S、A-S、S-Sのインタラクションを繰り返し行っていくことが必要である。質問力を高め、英語でやり取りをする力をつけさせていきたい。